

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年4月24日

【評価実施概要】

事業所番号	1170401200
法人名	株式会社カネット・ふれあい
事業所名	ふれあい多居夢川越
所在地	〒350-0838 埼玉県川越市宮元町4-10 (電話) 049-227-7446
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年4月24日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	14人, 非常勤 5人, 常勤換算 15.8人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	30,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (150,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	550 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柴野医院、川越歯科クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、郊外のまだ空き地の残る静かな場所に位置している。利用者の人格尊重を基本にして、「家庭」としての暖かさや人と人とのつながりを大切にして、利用者一人ひとりに合わせ支援している。また、個別で多様な外出を積極的に行っている。食事手作りも続け、食材の買い出し、食器洗い、配膳等も利用者が職員と一緒にやっている。医療連携も充実しており重度化した方への医療体制も医師との連携により行われている。また、地域の一員として自治会に加入し、地域の清掃やお祭りにも参加している。最近、散歩中に近くの野菜作りの農家から野菜や果物をいただいたりし、それを食材として有効に活用している。また、新たに幼稚園との交流も計画し、積極的に地域密着をはかっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果は、全職員でカンファレンス会議を開いた。介護計画の作成についてはその意見を集約し、本人、家族等に説明し納得を得ている。また、勤務ローテーションについてはフロア長が作成し、これを基本にして、各人が希望の休日等を記入し調整をしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全体で自己評価に取り組み、一人ひとりが各項目について問題点を共有し、それを計画作成者がまとめるなどして、サービスの向上につなげている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、設置規程がありメンバーは地域包括支援センター、地域代表、民生委員、家族代表、ホームからなり各分野からの出席状況はよい。この会議の中で話し合われたもののうち反映できるものは、反映をしている。この会議録も整備され議事録は市にも報告されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月1回必ず利用者の近況、健康状態、金銭管理を報告している。また、利用者に変化があった場合は、その都度報告をしており、家族等が来所した際は、利用者の近況や健康状態を報告し連携をとっている。利用者及び家族等からの苦情、要望については、フロア会議、全体会議で対応できる体制をとっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入り、利用者、職員共に地域の清掃やお祭りに参加し、ホームは、ボランティアの受け入れをしている。また、新たに近くにある幼稚園の受け入れも計画しているところである。運営推進会議にも地域の代表が加わり、いろいろな情報交換が行われている。利用者と職員が日常の散歩中、地域の人達から採れたての農産物をいただいたりしており、地域との連携は良好である。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人格尊重を前提に、六項目を独自の理念に掲げ、サービスの質の向上に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲げ、誰にでもわかるようにしている。職員には、月1回のフロア会議、その都度開かれるミーティングで確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の行事に参加するとともに、ホームではボランティアの受け入れをしている。また、新たに近くの幼稚園との交流も計画しているところである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成については、フロア会議で全職員が項目を把握し、話し合ったうえで作成者がまとめている。また、外部評価の結果についてもフロア会議で話し合い、問題点は何かをつかみ改善できる物から改善し、利用者へのサービスの向上につなげている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	約3ヶ月に1回開催し、様々な情報交換を行い、実際に運営に反映できる物は反映している。また会議の議事録も整備され市に報告をしている。会議のメンバーの出席状況もよい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市に書類等を提出するときに、ホームの状況、困っていること、心配なことなどを担当者に話し情報の交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1回必ず預り金の報告をし、利用者の状況を手紙で報告している。また、利用者の状況が変化した場合はその都度連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理担当の窓口が1F、2Fにあり外部にも2カ所ある。その中で把握した内容については、全体で認識できるように全体会議、フロア会議で話し合い改善に向け努力している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を最小限に抑えている。利用者の状況によっていろいろ対応が変わるが、一人ひとりにあった対応をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修、継続研修などが運営規定にも定められており職場内で行っている。また、可能な限り外部研修に参加するように努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームは西部地区にあるが、南部地区グループホーム協議会にもできるだけ参加をし、他の同業者と交流を図ることによっていろいろな情報を交換している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームに馴染めるよう、利用者について家族等の話からヒントを得られるように努めている。また、家族も一緒に宿泊できるような体制もとっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から学ぶことが多くあり、それらを引き出しながら学びあう関係を築いて生活をしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前に一人ひとりの要望を確認したうえで利用を開始している。その後もカンファレンスを活用して利用者の要望にそっているか確認しながら支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画については、カンファレンス会議を開き、話し合いのうえ作成している。その際、家族の意見も聞き納得してもらっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月カンファレンス会議を開き、定期的な見直しのほか変化があった際も随時見直しをしている。特に入院、転倒があった場合は、利用者の状態の変化に注意を払い、必要に応じて計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近くの温泉施設を利用する等、出来る限り状況に応じた支援をしている。また、地域の催し物への参加、毎週1回教会での礼拝等も支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の医師による定期的な往診、または、その都度希望によりかかりつけ医の往診がある。必要により、専門医の紹介をしてもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医、家族、関係者と話し合い看取りを行っている。対応については、主治医の指示により全員で話し合い情報や方針を共有したうえで実施している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録はイニシャルで表示し、プライバシー確保に努めている。また、排泄誘導時は、周りの利用者にわからないよう配慮し支援している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体の日常生活を支援している。外出は、利用者の希望時に職員が同行している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは、職員が利用者に要望を伺い決定している。また、動ける利用者は、職員と一緒に食事の環境作りをしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間帯を決めることはなく、毎日利用者の希望に合わせて入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩をできる限りしている。また、花の水やり、縫い物等、役割や楽しみごとを作り出す働きかけに努め、個別のレクリエーションも支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に行ったり、童謡を歌う会に参加する等戸外に出る支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけず、自由に行動できるようにしている。また、死角になっている出入り口は、チャイムセンサーで対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難・消防訓練を実施している。しかし、地域の方を含めた訓練には至っていない。		災害時に備え、地域の方との協力体制を築く必要がある。また、ホームが地域に溶け込むための一助となるので、地域住民との連携を図っていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人細かくバイタルチェックがされているが、カロリー計算の記載はされていない。		カロリーは、栄養のバランス上常に意識することが大切であるため、確認・把握し記録していくことが望まれる。
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には花や季節の飾り付けをすることで季節感を採り入れている。また、椅子なども気持ちが和むように配置されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたソファやタンス、ベット、仏壇等馴染みのある物を居室に置き、家庭と変わらないように工夫されている。		